

別添3

定款作成上の注意

この定款例は、良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法等の一部を改正する法律（平成18年法律第84号。以下「改正法」という。）の施行日前に設立された医療法人（改正法の施行の際現に改正前の医療法第42条第2項に規定する特別医療法人及び租税特別措置法第67条の2第1項に規定する特定の医療法人を除く。）の定款変更につき医療法第50条第1項の認可の申請又は第3項の届出が必要となる部分を示したものである。

1. 〃部分、改正法の施行に伴い改正前のモデル定款の変更が必要な部分であり、改正法附則第9条第1項の規定により、施行日から1年以内に定款変更の認可の申請（届出を含む。）をしなければならぬこと。
- ただし、第4条第2項、第18条第3項及び第19条第5項については、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項に規定する指定管理者として管理する公の施設である病院（診療所、介護老人保健施設）がない場合、規定する必要があること。
2. 〃部分、改正法附則第10条第2項の規定により、当分の間、定款変更の認可の申請を必要としないこと。（改正法附則第9条第2項に規定する医療法人から改正法の施行後の医療法に規定する医療法人へ移行する際に変更が必要な部分である。）
3. 〃部分、改正前のモデル定款に規定がない部分又は医療法その他関係法令上の規定が存在しないため改正後の定款例に規定する必要がない部分であり、医療法人が任意に定款変更の認可の申請をすることができること。

〔改正後〕 社団医療法人の定款例	〔改正前〕 出資額限度法人モデル定款 (平成16年医政発第0813001号厚生労働省医政局長通知)	〔改正前〕 社団医療法人モデル定款 (昭和61年健政発第410号厚生省健康政策局長通知)
<p>医療法人〇〇会定款</p> <p>第1章 名称及び事務所</p> <p>第1条 本社は、医療法人〇〇会と称する。</p> <p>第2条 本社は、事務所を〇〇県〇〇郡（市）〇〇町（村）〇〇番地に置く。</p> <p>第2章 目的及び事業</p> <p>第3条 本社は、病院（診療所、介護老人保健施設）を営み、科学的でかつ適正な医療（及び疾病・負傷等により寝たきりの状態等にある老人に對し、看護、医学的管理下の介護及び必要な医療等）を普及することを目的とする。</p>	<p>医療法人〇〇会定款</p> <p>第1章 名称及び事務所</p> <p>第1条 本社は、医療法人〇〇会と称する。</p> <p>第2条 本社は、事務所を〇〇県〇〇郡（市）〇〇町（村）〇〇番地に置く。</p> <p>第2章 目的及び事業</p> <p>第3条 本社は、病院（診療所、介護老人保健施設）を営み、科学的でかつ適正な医療（及び疾病・負傷等により寝たきりの状態等にある老人に對し、看護、医学的管理下の介護及び必要な医療等）を普及することを目的とする。</p>	<p>医療法人〇〇会定款</p> <p>第1章 名称及び事務所</p> <p>第1条 本社は、医療法人〇〇会と称する。</p> <p>第2条 本社は、事務所を〇〇県〇〇郡（市）〇〇町（村）〇〇番地に置く。</p> <p>第2章 目的及び事業</p> <p>第3条 本社は、病院（診療所、介護老人保健施設）を営み、科学的でかつ適正な医療（及び疾病・負傷等により寝たきりの状態等にある老人に對し、看護、医学的管理下の介護及び必要な医療等）を普及することを目的とする。</p>

<p>第4条 本社の開設する病院（診療所、介護老人保健施設）の名称及び開設場所は、次のとおりとする。</p> <p>(1) ○○病院 ○○県○○郡(市)○○町(村)</p> <p>(2) ○○診療所 ○○県○○郡(市)○○町(村)</p> <p>(3) ○○園 ○○県○○郡(市)○○町(村)</p> <p>2 本団が○○市(町、村)から指定管理者として指定を受けて管理する病院（診療所、介護老人保健施設）の名称及び開設場所は、次のとおりとする。</p> <p>(1) ○○病院 ○○県○○郡(市)○○町(村)</p> <p>(2) ○○診療所 ○○県○○郡(市)○○町(村)</p> <p>(3) ○○園 ○○県○○郡(市)○○町(村)</p>	<p>第4条 本社の開設する病院（診療所、介護老人保健施設）の名称及び開設場所は、次のとおりとする。</p> <p>(1) ○○病院 ○○県○○郡(市)○○町(村)</p> <p>(2) ○○診療所 ○○県○○郡(市)○○町(村)</p> <p>(3) ○○園 ○○県○○郡(市)○○町(村)</p>	<p>第4条 本社の開設する病院（診療所、介護老人保健施設）の名称及び開設場所は、次のとおりとする。</p> <p>(1) ○○病院 ○○県○○郡(市)○○町(村)</p> <p>(2) ○○診療所 ○○県○○郡(市)○○町(村)</p> <p>(3) ○○園 ○○県○○郡(市)○○町(村)</p>
<p>第5条 本社は、前条に掲げる病院（診療所、介護老人保健施設）を営するほか、次の業務を行う。</p> <p>○看護師養成所の経営</p> <p>第3章 社員</p>	<p>第5条 本社は、前条に掲げる病院（診療所、介護老人保健施設）を営するほか、次の業務を行う。</p> <p>○看護師養成所の経営</p> <p>第3章 社員</p>	<p>第5条 本社は、前条に掲げる病院（診療所、介護老人保健施設）を営するほか、次の業務を行う。</p> <p>○看護師養成所の経営</p> <p>第3章 社員</p>
<p>第6条 本社の社員にならうとする者は、社員総会の承認を得なければならない。</p> <p>2 本団は、社員名簿を備え置き、社員の変更があるごとに必要な変更を加えなければならない。</p> <p>第7条 社員は、次に掲げる理由によりその資格を失う。</p> <p>(1) 除名</p> <p>(2) 死亡</p> <p>(3) 退社</p>	<p>第6条 本社の社員にならうとするものは、社員総会の承認を得なければならない。</p> <p>第7条 社員は、次に掲げる理由によりその資格を失う。</p> <p>1 除名</p> <p>2 死亡</p> <p>3 退社</p>	<p>第6条 本社の社員にならうとするものは、社員総会の承認を得なければならない。</p> <p>第7条 社員は、次に掲げる理由によりその資格を失う。</p> <p>1 除名</p> <p>2 死亡</p> <p>3 退社</p>

<p>2 社員であつて、社員たる義務を履行せず本社の定款に違反し又は品位を傷つける行為のあつた者は、社員総会の議決を経て除名することができる。</p> <p>第8条 やむを得ない理由のあるときは、社員はその旨を理事長に届け出て、その同意を得て退社することができる。</p> <p><u>(削除)</u></p>	<p>2 社員であつて、社員たる義務を履行せず本社の定款に違反し又は品位を傷つける行為のあつた者は、社員総会の議決を経て除名することができる。</p> <p>第8条 やむを得ない理由のあるときは、社員はその旨を理事長に届け出て、その同意を得て退社することができる。</p> <p>第9条 社員資格を喪失した者は、その出資額を限度として払戻しを請求することができる。</p>	<p>2 社員であつて、社員たる義務を履行せず本社の定款に違反し又は品位を傷つける行為のあつた者は、社員総会の議決を経て除名することができる。</p> <p>第8条 やむを得ない理由のあるときは、社員はその旨を理事長に届け出て、その同意を得て退社することができる。</p> <p>第9条 社員資格を喪失した者は、その出資額に応じて払戻しを請求することができる。</p>
<p>第4章 資産及び会計</p> <p>第9条 本社の資産は次のとおりとする。</p> <p>(1) 設立当時の財産  (2) 設立後寄附された金品  (3) 諸種の資産から生ずる果実  (4) 事業に伴う収入  (5) その他の収入</p> <p>2 本社の設立当時の財産目録は、またる事務所において備え置くものとする。</p>	<p>第4章 資産及び会計</p> <p>第10条 本社の資産のうち、次に掲げる財産を基本財産とする。</p> <p>(1)・・・  (2)・・・  (3)・・・</p> <p>2 基本財産は処分し、又は担保に供してはならない。ただし、特別の理由のある場合には、理事会及び社員総会の議決を経て、処分し、又は担保に供することができる。</p>	<p>第4章 資産及び会計</p> <p>第10条 本社の資産のうち、次に掲げる財産を基本財産とする。</p> <p>(1)・・・  (2)・・・  (3)・・・</p> <p>2 基本財産は処分し、又は担保に供してはならない。ただし、特別の理由のある場合には、理事会及び社員総会の議決を経て、処分し、又は担保に供することができる。</p>
<p>第10条 本社の資産のうち、次に掲げる財産を基本財産とする。</p> <p>(1)・・・  (2)・・・  (3)・・・</p> <p>2 基本財産は処分し、又は担保に供してはならない。ただし、特別の理由のある場合には、理事会及び社員総会の議決を経て、処分し、又は担保に供することができる。</p>	<p>第10条 本社の資産のうち、次に掲げる財産を基本財産とする。</p> <p>(1)・・・  (2)・・・  (3)・・・</p> <p>2 基本財産は処分し、又は担保に供してはならない。ただし、特別の理由のある場合には、理事会及び社員総会の議決を経て、処分し、又は担保に供することができる。</p>	<p>第10条 本社の資産のうち、次に掲げる財産を基本財産とする。</p> <p>(1)・・・  (2)・・・  (3)・・・</p> <p>2 基本財産は処分し、又は担保に供してはならない。ただし、特別の理由のある場合には、理事会及び社員総会の議決を経て、処分し、又は担保に供することができる。</p>

<p>第11条 本社の資産は、社員総会で定めた方法によって、理事長が管理する。</p> <p>第12条 資産のうち現金は、日本郵政公社、確実な銀行又は信託会社に預け入れ若しくは信託し、又は国公債若しくは確実な有価証券に換え保管するものとする。</p> <p>第13条 本社の収支予算は、毎会計年度開始前に理事会及び社員総会の議決を経て定める。</p> <p>第14条 本社の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。</p> <p>第15条 本社の決算については、毎会計年度終了後2月以内に、<u>事業報告書、財産目録、貸借対照表及び損益計算書（以下「事業報告書等」という。）</u>を作成しなければならない。</p> <p>2 本社は、<u>事業報告書等、監事の監査報告書及び本社の定款を事務所に備えて置き、社員又は債権者から請求があつた場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。</u></p> <p>3 本社は、<u>毎会計年度終了後3月以内に、事業報告書等及び監事の監査報告書を〇〇県知事（〇〇厚生局長）に届けなければならない。</u></p> <p>第16条 決算の結果、剰余金を生じたときは、理事会及び社員総会の議決を経てその全部又は一部を基本財産に繰り入れ、又は積立金として積み立てるものとし、配当してはならない。</p>	<p>第11条 本社の資産は、社員総会で定めた方法によって、理事長が管理する。</p> <p>第12条 資産のうち現金は、日本郵政公社、確実な銀行又は信託会社に預け入れ若しくは信託し、又は国公債若しくは確実な有価証券に換え保管するものとする。</p> <p>第13条 本社の収支予算は、毎会計年度開始前に理事会及び社員総会の議決を経て定める。</p> <p>第14条 本社の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。</p> <p>第15条 本社の決算については、毎会計年度終了後2月以内に監事の監査を経た上、理事会及び社員総会の承認を受け、かつ、これを〇〇県知事（〇〇厚生局長）に届けなければならない。</p> <p>第16条 決算の結果、剰余金を生じたときは、理事会及び社員総会の議決を経てその全部又は一部を基本財産に繰り入れ、又は積立金として積み立てるものとし、配当してはならない。</p>	<p>第11条 本社の資産は、社員総会で定めた方法によって、理事長が管理する。</p> <p>第12条 資産のうち現金は、日本郵政公社、確実な銀行又は信託会社に預け入れ若しくは信託し、又は国公債若しくは確実な有価証券に換え保管するものとする。</p> <p>第13条 本社の収支予算は、毎会計年度開始前に理事会及び社員総会の議決を経て定める。</p> <p>第14条 本社の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。</p> <p>第15条 本社の決算については、毎会計年度終了後2月以内に監事の監査を経た上、理事会及び社員総会の承認を受け、かつ、これを〇〇県知事（〇〇厚生局長）に届けなければならない。</p> <p>第16条 決算の結果、剰余金を生じたときは、理事会及び社員総会の議決を経てその全部又は一部を基本財産に繰り入れ、又は積立金として積み立てるものとし、配当してはならない。</p>
--	--	--

<p>第5章 役員</p> <p>第17条 本団に、次の役員を置く。  (1) 理事 〇名以上〇名以内  うち理事長1名  常務理事〇名  (2) 監事 〇名</p> <p>第18条 理事及び監事は、社員総会において選任する。</p> <p>2. 理事長は、理事の互選によって定める。</p> <p>3. 本団が開設(指定管理者として管理する場合を含む。)する病院(診療所、介護老人保健施設)の管理者は、必ず理事に加えなければならない。</p> <p>4. 前項の理事は、管理者の職を退いたときは、理事の職を失うものとする。</p> <p>5. 理事又は監事のうち、その定数の5分の1を超える者が欠けたときは、1月以内に補充しなければならない。</p> <p>第19条 理事長のみが本団を代表する。  2. 理事長は本団の業務を総理する。  3. 理事は、本団の常務を処理し、理事長に事故があるときは、理事長があらかじめ定めた順位に従い、理事がその職務を行う。  4. 監事は、次の職務を行う。</p>	<p>第5章 役員</p> <p>第17条 本団に、次の役員を置く。  (1) 理事 〇名以上〇名以内  うち理事長1名  常務理事〇名  (2) 監事 〇名</p> <p>2. 理事及び監事は、社員総会において本団の社員の中から選任する。ただし、必要があるときは、社員以外の者から選任することを妨げない。</p> <p>第18条 理事長及び常務理事は、理事の互選によって定める。</p> <p>2. 本団の開設する病院(診療所、介護老人保健施設)の管理者は、必ず理事に加えなければならない。ただし、〇〇県知事(〇〇厚生局長)の認可を受けた場合はこの限りでない。</p> <p>3. 前項の理事は、管理者の職を退いたときは、理事の職を失うものとする。ただし、再選を妨げるものではない。</p> <p>第19条 理事長のみが本団を代表する。  2. 理事長は本団の業務を総理する。  3. 常務理事は、理事長を補佐して常務を処理し、理事長に事故があるときは、その職務を行う。  4. 理事は、本団の常務を処理する。  5. 監事は、民法第59条に規定する職務を行う。</p>	<p>第5章 役員</p> <p>第17条 本団に、次の役員を置く。  (1) 理事 〇名以上〇名以内  うち理事長1名  常務理事〇名  (2) 監事 〇名</p> <p>2. 理事及び監事は、社員総会において本団の社員の中から選任する。ただし、必要があるときは、社員以外の者から選任することを妨げない。</p> <p>第18条 理事長及び常務理事は、理事の互選によって定める。</p> <p>2. 本団の開設する病院(診療所、介護老人保健施設)の管理者は、必ず理事に加えなければならない。ただし、〇〇県知事(〇〇厚生局長)の認可を受けた場合はこの限りでない。</p> <p>3. 前項の理事は、管理者の職を退いたときは、理事の職を失うものとする。ただし、再選を妨げるものではない。</p> <p>第19条 理事長のみが本団を代表する。  2. 理事長は本団の業務を総理する。  3. 常務理事は、理事長を補佐して常務を処理し、理事長に事故があるときは、その職務を行う。  4. 理事は、本団の常務を処理する。  5. 監事は、民法第59条に規定する職務を行う。</p>
---	--	--

<p>(1) <u>本社の業務を監査すること。</u>  (2) <u>本社の財産の状況を監査すること。</u>  (3) <u>本社の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後3月以内に社員総会又は理事に提出すること。</u>  (4) <u>第1号又は第2号による監査の結果、本社の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくはこの定款に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを〇〇県知事(〇〇厚生局長)又は社員総会に報告すること。</u>  (5) <u>第4号の報告をするために必要があるときは、社員総会を招集すること。</u>  (6) <u>本社の業務又は財産の状況について、理事に対して意見を述べること。</u></p>	<p>5. <u>監事は、本社の理事又は職員(本社の開設する病院、診療所又は介護老人保健施設(指定管理者として管理する病院等を含む。)の管理者その他の職員を含む。)を兼ねてはならない。</u></p>	<p>第20条 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。  2 補欠により就任した役員の任期は、前任者の残任期間とする。  3 役員は、任期満了後といえども、後任者が就任するまでは、その職務を行うものとする。</p>	<p>第6章 会議  第21条 会議は、社員総会及び理事会の2つとし、社員総会はこれを定時総会と臨時総会に分ける。</p>
	<p>6. <u>監事は、この法人の理事又は他の職務を兼任することができない。</u></p>	<p>第20条 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。  2 補欠により就任した役員の任期は、前任者の残任期間とする。  3 役員は、任期満了後といえども、後任者の就任するまでは、その職務を行うものとする。</p>	<p>第6章 会議  第21条 会議は、社員総会及び理事会の2つとし、社員総会はこれを定時総会と臨時総会に分ける。</p>
	<p>6. <u>監事は、この法人の理事又は他の職務を兼任することができない。</u></p>	<p>第20条 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。  2 補欠により就任した役員の任期は、前任者の残任期間とする。  3 役員は、任期満了後といえども、後任者の就任するまでは、その職務を行うものとする。</p>	<p>第6章 会議  第21条 会議は、社員総会及び理事会の2つとし、社員総会はこれを定時総会と臨時総会に分ける。</p>

<p>第22条 定時総会は、毎年2回、○月及び○月に開催する。</p> <p>第23条 理事長は、必要があると認めるときは、いつでも臨時総会及び理事会を招集することができる。</p> <p>2 社員総会の議長は、社員総会において選任し、理事会の議長は、理事長をもってあてゑる。</p> <p>3 理事長は、総社員の5分の1以上の社員から会議に付議すべき事項を示して臨時総会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に、これを招集しなければならない。</p> <p>4 理事会を構成する理事の3分の1以上から連名をもって理事会の目的たる事項を示して請求があったときは、理事長は理事会を招集しなければならない。</p> <p>(第25条第1項へ)←</p>	<p>第22条 定時総会は、毎年2回、○月及び○月に開催し、臨時総会及び理事会は随時必要となるときに開催する。</p> <p>第23条 会議は、理事長がこれを招集し、その議長となる。</p> <p>2 その会議を構成する社員又は理事の3分の1以上から連名をもって会議の目的たる事項を示して請求があったときは、理事長はその会議を招集しなければならない。</p> <p>第24条 社員総会は、社員の2分の1以上が出席しなければ、議事を開くことができない。</p> <p>第25条 次の事項は、社員総会の議決を経なければならぬ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 定款の変更</li> <li>2 基本財産の設定及び処分（担保提供を含む。）</li> <li>3 毎事業年度の事業計画の決定及び変更</li> <li>4 収支予算及び決算の決定</li> <li>5 剰余金又は損失金の処理</li> <li>6 借入金額の最高限度の決定</li> <li>7 社員の入社及び除名</li> <li>8 本団体の解散</li> <li>9 他の医療法人との合併契約の締結</li> </ol>	<p>第22条 定時総会は、毎年2回、○月及び○月に開催し、臨時総会及び理事会は随時必要となるときに開催する。</p> <p>第23条 会議は、理事長がこれを招集し、その議長となる。</p> <p>2 その会議を構成する社員又は理事の3分の1以上から連名をもって会議の目的たる事項を示して請求があったときは、理事長はその会議を招集しなければならない。</p> <p>第24条 社員総会は、社員の2分の1以上が出席しなければ、議事を開くことができない。</p> <p>第25条 次の事項は、社員総会の議決を経なければならぬ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 定款の変更</li> <li>2 基本財産の設定及び処分（担保提供を含む。）</li> <li>3 毎事業年度の事業計画の決定及び変更</li> <li>4 収支予算及び決算の決定</li> <li>5 剰余金又は損失金の処理</li> <li>6 借入金額の最高限度の決定</li> <li>7 社員の入社及び除名</li> <li>8 本団体の解散</li> <li>9 他の医療法人との合併契約の締結</li> </ol>
---	---	---

<p>(10) その他重要な事項</p>	<p>10 その他重要な事項</p>	<p>10 その他重要な事項</p>	<p>10 その他重要な事項</p>
<p>第25条 社員総会は、総社員の過半数の出席がなければ、その議事を開き、議決することができない。</p> <p>2 社員総会の議事は、出席した社員の議決権の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決すところによる。</p>	<p>第26条 社員総会の議事は、別段の定めあるものほか、出席した社員の議決権の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決すところによる。ただし、定款の変更、社員の除名及び解散の議決は、社員の3分の2以上が出席し、その3分の2以上の同意を要する。</p>	<p>第26条 社員総会の議事は、別段の定めあるものほか、出席した社員の議決権の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決すところによる。ただし、定款の変更、社員の除名及び解散の議決は、社員の3分の2以上が出席し、その3分の2以上の同意を要する。</p>	<p>3 前項の場合において、議長は、社員として議決に加わることができない。</p> <p>第26条 社員総会の招集は、期日の少なくとも5日前までに会議の目的である事項、日時及び場所を記載し、理事長がこれに記名した書面で社員に通知しなければならない。</p> <p>2 社員総会においては、前項の規定によつてあらかじめ通知した事項のほか議決することができない。ただし、急を要する場合はこの限りではない。</p> <p>第27条 社員は、社員総会において1個の議決権及び選挙権を有する。</p> <p>第28条 社員は、あらかじめ通知のあつた事項についてのみ書面又は代理人をもつて議決権及び選挙権を行使することができる。ただし、代理人は社員でなければならない。</p> <p>2 代理人は、代理権を証する書面に議長に提出しなければならない。</p> <p>第29条 会議の議決事項につき特別の利害関係を有</p>
<p>第26条 社員総会の招集は、期日の少なくとも5日前までに会議の目的である事項、日時及び場所を記載し、理事長がこれに記名した書面で社員に通知しなければならない。</p> <p>2 社員総会においては、前項の規定によつてあらかじめ通知した事項のほか議決することができない。ただし、急を要する場合はこの限りではない。</p> <p>第27条 社員は、社員総会において1個の議決権及び選挙権を有する。</p> <p>第28条 社員は、あらかじめ通知のあつた事項についてのみ書面又は代理人をもつて議決権及び選挙権を行使することができる。ただし、代理人は社員でなければならない。</p> <p>2 代理人は、代理権を証する書面に議長に提出しなければならない。</p> <p>第29条 会議の議決事項につき特別の利害関係を有</p>	<p>第27条 社員総会の招集は、期日の少なくとも5日前までに会議の目的である事項、日時及び場所を記載し、理事長がこれに記名した書面で社員に通知しなければならない。</p> <p>2 社員総会においては、前項の規定によつてあらかじめ通知した事項のほか議決することができない。ただし、急を要する場合はこの限りではない。</p> <p>第28条 社員は、社員総会において1個の議決権及び選挙権を有する。</p> <p>第29条 社員は、あらかじめ通知のあつた事項についてのみ書面又は代理人をもつて議決権及び選挙権を行使することができる。ただし、代理人は社員でなければならない。</p> <p>2 代理人は、代理権を証する書面に議長に提出しなければならない。</p> <p>第30条 会議の議決事項につき特別の利害関係を有</p>	<p>第27条 社員総会の招集は、期日の少なくとも5日前までに会議の目的である事項、日時及び場所を記載し、理事長がこれに記名した書面で社員に通知しなければならない。</p> <p>2 社員総会においては、前項の規定によつてあらかじめ通知した事項のほか議決することができない。ただし、急を要する場合はこの限りではない。</p> <p>第28条 社員は、社員総会において1個の議決権及び選挙権を有する。</p> <p>第29条 社員は、あらかじめ通知のあつた事項についてのみ書面又は代理人をもつて議決権及び選挙権を行使することができる。ただし、代理人は社員でなければならない。</p> <p>2 代理人は、代理権を証する書面に議長に提出しなければならない。</p> <p>第30条 会議の議決事項につき特別の利害関係を有</p>	<p>第27条 社員総会の招集は、期日の少なくとも5日前までに会議の目的である事項、日時及び場所を記載し、理事長がこれに記名した書面で社員に通知しなければならない。</p> <p>2 社員総会においては、前項の規定によつてあらかじめ通知した事項のほか議決することができない。ただし、急を要する場合はこの限りではない。</p> <p>第28条 社員は、社員総会において1個の議決権及び選挙権を有する。</p> <p>第29条 社員は、あらかじめ通知のあつた事項についてのみ書面又は代理人をもつて議決権及び選挙権を行使することができる。ただし、代理人は社員でなければならない。</p> <p>2 代理人は、代理権を証する書面に議長に提出しなければならない。</p> <p>第30条 会議の議決事項につき特別の利害関係を有</p>



<p>する者は、当該事項につきその議決権を行使できない。</p> <p>第30条 社員総会の議事についての細則は、社員総会で定める。</p> <p>2 理事会の議事についての細則は、理事会で定める。</p> <p>第7章 定款の変更</p> <p>第31条 この定款は、社員総会の議決を経、かつ、〇〇県知事(〇〇厚生局長)の認可を得なければ変更することができない。</p> <p>第8章 解散及び合併</p> <p>第32条 本社は、次の事由によって解散する。</p> <p>(1) 目的たる業務の成功の不能</p> <p>(2) 社員総会の決議</p> <p>(3) 社員の欠亡</p> <p>(4) 他の医療法人との合併</p> <p>(5) 破産手続開始の決定</p> <p>(6) 設立認可の取消し。</p> <p>2 本社は、前項第2号の社員総会の4分の3以上の賛成がなければ、前項第2号の社員総会の決議をすることができない。</p> <p>3 第1項第1号又は第2号の事由により解散する場合は、〇〇県知事(厚生労働大臣)の認可を受けなければならない。</p> <p>第33条 本会社が解散したときは、合併及び破産手続開始の決定による解散の場合を除き、理事がそ</p>	<p>する者は、当該事項につきその議決権を行使できない。</p> <p>第31条 社員総会の議事についての細則は、社員総会で定める。</p> <p>2 理事会の議事についての細則は、理事会で定める。</p> <p>第7章 定款の変更及び解散</p> <p>第32条 この定款は、社員総会の議決を経、かつ、〇〇県知事(〇〇厚生局長)の認可を得なければ変更することができない。</p> <p>第33条 本会社が解散したときは、理事がその清算人となる。ただし、社員総会の議決によって社員</p>	<p>する者は、当該事項につきその議決権を行使できない。</p> <p>第31条 社員総会の議事についての細則は、社員総会で定める。</p> <p>2 理事会の議事についての細則は、理事会で定める。</p> <p>第7章 定款の変更及び解散</p> <p>第32条 この定款は、社員総会の議決を経、かつ、〇〇県知事(〇〇厚生局長)の認可を得なければ変更することができない。</p> <p>第33条 本会社が解散したときは、理事がその清算人となる。ただし、社員総会の議決によって社員</p>
---	--	--

<p>の清算人となる。ただし、社員総会の議決によつて理事以外の者を選任することができる。</p> <p>2. 清算人は、社員の欠亡による事由によつて本団が解散した場合には、〇〇県知事（厚生労働大臣）にその旨を届け出なければならぬ。</p> <p>3. 清算人は、次の各号に掲げる職務を行い、又、当該職務を行うために必要な一切の行為をすることができる。</p> <p>(1) 現務の終了  (2) 債権の取立て及び債務の弁済  (3) 残余財産の引渡し。</p> <p>第34条 本団が解散した場合の残余財産は、合併及び破産手続開始の決定による解散の場合を除き、次の者から選定して帰属させるものとする。</p> <p>(1) 国  (2) 地方公共団体  (3) 医療法第31条に定める公的医療機関の開設者  (4) 郡市区医師会又は都道府県医師会（民法第34条の規定により設立された法人に限る。）  (5) 財団医療法人又は社団医療法人であつて特分の定めのないもの</p> <p>第35条 本団は、総社員の同意があるときは、〇〇県知事（厚生労働大臣）の認可を得て、他の社団医療法人と合併することができる。</p> <p>(削除)</p>	<p>の中からこれを選任することができる。</p> <p>第34条 本団が解散した場合の残余財産は、<u>払込済出資額を限度として分配するものとし、当該払込済出資額を控除してなお残余があるときは、社員総会の議決により、〇〇県知事（厚生労働大臣）の認可を得て、国若しくは地方公共団体又は租税特別措置法（昭和32年法律第26号）第67条の2に定める特定医療法人若しくは医療法（昭和23年法律第205号）第42条第2項に定める特別医療法人に当該残余の額を帰属させるものとする。</u></p> <p>第34条の2 第9条及び前条の規定は第32条の規定にかかわらず変更することができない。ただし、特定医療法人又は特別医療法人に移行するために変更する場合はこの限りではない。</p>	<p>の中からこれを選任することができる。</p> <p>第34条 本団が解散した場合の残余財産は、<u>払込済出資額に依りて分配するものとする。</u></p>
--	--	---

第9章 雑則

第36条 本社の公告は、広報（及び〇〇新聞）によつて行う。

第37条 この定款の施行細則は、理事会及び社員総会の議決を経て定める。

附 則

本団設立当初の役員は、次のとおりとする。

理事	長	○	○	○	○	○	○	○	○
理事	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○
監事	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第8章 雑則

第35条 本社の公告は、〇〇新聞（広報）によつて行う。

第36条 この定款の施行細則は、理事会及び社員総会の議決を経て定める。

附 則

本団設立当初の役員は、次のとおりとする。

理事	長	○	○	○	○	○	○	○	○
常務理事	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理事	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○
監事	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第8章 雑則

第35条 本社の公告は、〇〇新聞（広報）によつて行う。

第36条 この定款の施行細則は、理事会及び社員総会の議決を経て定める。

附 則

本団設立当初の役員は、次のとおりとする。

理事	長	○	○	○	○	○	○	○	○
常務理事	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理事	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○
監事	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○

別添 4

寄附行為作成上の注意

この寄附行為例は、良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法等の一部を改正する法律（平成 18 年法律第 84 号。以下「改正法」という。）の施行日前に設立された医療法人（改正法の施行の際現に改正前の医療法第 4 2 条第 2 項に規定する特別医療法人及び租税特別措置法第 6 7 条の 2 第 1 項に規定する特定の医療法人を除く。）の寄附行為変更につき医療法第 5 0 条第 1 項の認可の申請又は第 3 項の届出が必要となる部分を示したものである。

1. 〃部分は、改正法の施行に伴い改正前のモデル寄附行為の変更が必要な部分であり、改正法附則第 9 条第 1 項の規定により、施行日から 1 年以内に寄附行為変更の認可の申請（届出を含む。）をしなければならないこと。
- ただし、第 4 条第 2 項、第 15 条第 3 項及び第 16 条第 5 項については、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 3 項に規定する指定管理者として管理する公の施設である病院（診療所、介護老人保健施設）がない場合、規定する必要がないこと。
2. 〃部分は、改正法附則第 1 0 条第 2 項の規定により、当分の間、寄附行為変更の認可の申請を必要としないこと。（改正法附則第 9 条第 2 項に規定する医療法人から改正法の施行後の医療法に規定する医療法人へ移行する際に変更が必要な部分である。）
3. 〃部分は、改正前のモデル寄附行為に規定がない部分又は医療法その他関係法令上の規定が存在しないため改正後の寄附行為例に規定する必要がない部分であり、医療法人が任意に寄附行為変更の認可の申請をすることができること。

〔改正後〕 財団医療法人の寄附行為例 医療法人〇〇会寄附行為	〔改正前〕 財団医療法人モデル寄附行為 （昭和 61 年健政発第 410 号厚生省健康政策局長通知） 医療法人〇〇会寄附行為
<p>第 1 章 名称及び事務所</p> <p>第 1 条 本財団は、医療法人〇〇会と称する。</p> <p>第 2 条 本財団は、事務所を〇〇県〇〇郡（市）〇〇町（村）〇〇番地に置く。</p> <p>第 2 章 目的及び事業</p> <p>第 3 条 本財団は、病院（診療所、介護老人保健施設）を営営し、科学的でかつ適正な医療（及び疾病・負傷等により寝たきりの状態等にある老人に対し、看護、医学的管理下の介護及び必要な医療等）を普及することを目的とする。</p> <p>第 4 条 本財団の開設する病院（診療所、介護老人保健施設）の名称及び開設場所は、次のとおりとする。</p>	<p>第 1 章 名称及び事務所</p> <p>第 1 条 本財団は、医療法人〇〇会と称する。</p> <p>第 2 条 本財団は、事務所を〇〇県〇〇郡（市）〇〇町（村）〇〇番地に置く。</p> <p>第 2 章 目的及び事業</p> <p>第 3 条 本財団は、病院（診療所、介護老人保健施設）を営営し、科学的でかつ適正な医療（及び疾病・負傷等により寝たきりの状態等にある老人に対し、看護、医学的管理下の介護及び必要な医療等）を普及することを目的とする。</p> <p>第 4 条 本財団の開設する病院（診療所、介護老人保健施設）の名称及び開設場所は、次のとおりとする。</p>

- (1) ○○病院 ○○県○○郡 (市) ○○町 (村)
- (2) ○○診療所 ○○県○○郡 (市) ○○町 (村)
- (3) ○○園 ○○県○○郡 (市) ○○町 (村)

2. 本財団が○市(町、村)から指定管理者として指定を受けて管理する病院(診療所、介護老人保健施設)の名称及び開設場所は、次のとおりとする。

- (1) ○○病院 ○○県○○郡 (市) ○○町 (村)
- (2) ○○診療所 ○○県○○郡 (市) ○○町 (村)
- (3) ○○園 ○○県○○郡 (市) ○○町 (村)

第5条 本財団は、前条に掲げる病院(診療所、介護老人保健施設)を運営するほか、次の業務を行う。

○○看護師養成所の経営

### 第3章 資産及び会計

第6条 本財団の資産は次のとおりとする。

- (1) 設立当時の財産
- (2) 設立後寄附された金品
- (3) 諸種の資産から生ずる果実
- (4) 事業に伴う収入
- (5) その他の収入

2. 本財団の設立当時の財産目録は、主たる事務所において備え置くものとする。

第7条 本財団の資産のうち、次に掲げる財産を基本財産とする。

- (1) 前条第1項第1号の財産中の不動産及び金○○万円
- (2) 基本財産に編入すべきものとして指定された寄附金品
- (3) 前2号に掲げる財産から生ずる果実

2 基本財産は処分し、又は担保に供してはならない。ただし、特別の理由のある場合には、理事会の議決を経て、処分し、又は担保に供することができる。

- (1) ○○病院 ○○県○○郡 (市) ○○町 (村)
- (2) ○○診療所 ○○県○○郡 (市) ○○町 (村)
- (3) ○○園 ○○県○○郡 (市) ○○町 (村)

第5条 本財団は、前条に掲げる病院(診療所、介護老人保健施設)を運営するほか、次の業務を行う。

○○看護師養成所の経営

### 第3章 資産及び会計

第6条 本財団の資産は、次のとおりとする。

- (1) 設立当時の財産(別紙財産目録に掲げるもの)
- (2) 設立後寄附された金品
- (3) 諸種の資産から生ずる果実
- (4) 事業に伴う収入
- (5) その他の収入

第7条 本財団の資産のうち、次に掲げるものを基本財産とする。

- (1) 前条第1号の財産中の不動産及び金○○万円
- (2) 基本財産に編入すべきものとして指定された寄附金品
- (3) 前2号に掲げる財産から生ずる果実

2 基本財産は処分し、又は担保に供してはならない。ただし、特別の理由のある場合には、理事会及び評議員会の議決を経て、処分し、又は担保に供することができる。

第8条 本財団の資産は、理事会の議決を経て定めた方法によって、理事長が管理する。

第9条 資産のうち現金は、日本郵政公社、確実な銀行又は信託会社に預け入れ、若しくは信託し、又は国公債若しくは確実な有価証券に換え保管するものとする。

第10条 本財団の収支予算は、毎会計年度開始前に理事会の議決を経て定める。

第11条 本財団の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

第12条 本財団の決算については、毎会計年度終了後2月以内に、事業報告書、財産目録、貸借対照表及び損益計算書（以下「事業報告書等」という。）を作成しなければならない。

2 本財団は、事業報告書等、監事の監査報告書及び本財団の寄附行為を事務所に備えて置き、評議員又は債権者から請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。

3 本財団は、毎会計年度終了後3月以内に、事業報告書等及び監事の監査報告書を〇〇県知事（〇〇厚生局長）に届け出なければならない。

第13条 決算の結果、剰余金を生じたときは、理事会の議決を経て、その全部又は一部を基本財産に繰り入れ、又は積立金として積み立てるものとし、配当してはならない。

第4章 役員及び評議員

第14条 本財団に、次の役員及び評議員を置く。

(1) 理事 〇名以上〇名以内  
うち理事長1名

(2) 監事 〇名

第8条 本財団の資産は、理事会及び評議員会の議決を経て定めた方法によって、理事長が管理する。

第9条 資産のうち現金は、日本郵政公社、確実な銀行又は信託会社に預け入れ、若しくは信託し、又は国公債若しくは確実な有価証券に換え保管するものとする。

第10条 本財団の収支予算は、毎会計年度開始前に、理事会及び評議員会の議決を経て定める。

第11条 本財団の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

第12条 本財団の決算については、毎会計年度終了後2月以内に監事の監査を経た上、理事会及び評議員会の承認を受け、かつ、これを〇〇県知事（〇〇厚生局長）に届け出なければならない。

第13条 決算の結果、剰余金を生じたときは、理事会及び評議員会の議決を経て、その全部又は一部を基本財産に繰り入れ、又は積立金として積み立てるものとし、配当してはならない。

第4章 役員

第14条 本財団に、次の役員を置く。

(1) 理事 〇名以上〇名以内  
うち理事長1名  
常務理事〇名

(2) 監事 〇名

(3) 評議員 〇名以上〇名以内

第15条 理事及び監事は評議員会において選任する。

2. 理事長は、理事の互選によって定める。
3. 本財団が開設（指定管理者として管理する場合を含む。）する病院（診療所、介護老人保健施設）の管理者は、必ず理事に加えなければならない。
4. 前項の理事は、管理者の職を退いたときは、理事の職を失うものとする。
5. 理事又は監事のうち、その定数の5分の1を超える者が欠けたときは、1月以内に補充しなければならない。

第16条 理事長のみが本財団を代表する。

2. 理事長は本財団の業務を総理する。
3. 理事は、本財団の常務を処理し、理事長に事故があるときは、理事長があらからじめ定めた順位に従い、理事がその職務を行う。

（第15条第1項へ）←

（第15条第3項へ）←

（第15条第4項へ）←

（第16条第3項へ）←

4. 監事は、次の職務を行う。

- (1) 本財団の業務を監査すること。
- (2) 本財団の財産の状況を監査すること。
- (3) 本財団の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後3月以内に理事に提出すること。
- (4) 第1号又は第2号による監査の結果、本財団の業務又は財産に關し不正の行為又は法令若しくはこの寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを〇〇県知事（〇〇厚生局長）又は評議員会に報告すること。
- (5) 第4号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して評議員会

(3) 評議員 〇名以上〇名以内

第15条 理事長及び常務理事は、理事の互選によって定める。

2. 理事長のみが本財団を代表する。
3. 理事長は本財団の業務を総理する。
4. 常務理事は、理事長を補佐して常務を処理し、理事長に事故があるときは、その職務を行う。

第16条 理事及び監事は評議員会において選任する。

2. 本財団の開設する病院（診療所、介護老人保健施設）の管理者は、必ず理事に加えなければならない。ただし、〇〇県知事（〇〇厚生局長）の認可を受けた場合はこの限りでない。

3. 前項の理事は、管理者の職を退いたときは、理事の職を失うものとする。ただし、再選を妨げるものではない。

4. 理事は、本財団の常務を処理する。

5. 監事は、民法第59条に規定する職務を行う。

の招集を請求すること。

5. 監事は、本財団の業務又は財産の状況について、理事に対して意見を述べること。  
監事は、本財団の理事、評議員又は職員（本財団の開設する病院、診療所又は介護老人保健施設（指定管理者として管理する病院等を含む。）の管理者その他の職員を含む。）を兼ねてはならない。

第17条 評議員は、次に掲げる者から理事会において推薦した者につき、理事長が委嘱する。

- (1) 医師、歯科医師、薬剤師、看護師その他の医療従事者
  - (2) 病院、診療所又は介護老人保健施設の経営に関して識見を有する者
  - (3) 医療を受ける者
  - (4) 本財団の評議員として特に必要と認められる者
2. 評議員は、役員を兼ねることはできない。

第18条 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠により就任した役員の任期は、前任者の残任期間とする。  
3 役員は、任期満了後といえども、後任者が就任するまでは、その職務を行うものとする。

#### 第5章 会議

第19条 会議は、理事会及び評議員会の2つとする。

第20条 理事会は、理事長が招集し、その議長となる。

2 理事会は、理事の半数以上が出席しなければ議事を開くことができない。  
3 理事会に出席することのできない理事は、書面により、又は他の出席理事に委任して、表決することができる。  
4 理事は、理事会において1個の議決権及び選挙権を有する。ただし、理事会の議決事項につき特別の利害関係を有する者は、当該事項につきその議決権を行使できない。  
5. 理事会の議事は、出席した理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長が決すところによる。

6. 監事は、この法人の理事、評議員、又は他の職務を兼任することができない。

第17条 評議員は、理事会において推薦した者につき、理事長が委嘱する。

2. 評議員は、評議員会を構成し、この審附行為に定められた職務を行う。

第18条 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠により就任した役員の任期は、前任者の残任期間とする。  
3 役員は、任期満了後といえども、後任者が就任するまでは、その職務を行うものとする。

#### 第5章 会議

第19条 会議は、理事会及び評議員会の2つとする。

第20条 理事会は、理事長が招集し、その議長となる。

2 理事会は、理事の半数以上が出席しなければ議事を開くことができない。  
3 理事会に出席することのできない理事は、書面により、又は他の出席理事に委任して、表決することができる。  
4 理事は、理事会において1個の議決権及び選挙権を有する。ただし、理事会の議決事項につき特別の利害関係を有する者は、当該事項につきその議決権を行使できない。  
5 理事会の議事は、別段の定めあるもののほか、出席した理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長が決すところによる。



第 21 条 評議員会は、理事長が招集する。

(削除)

2. 評議員会の議長は、評議員の互選によって定める。

3 理事長は、総評議員の 5 分の 1 以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から 20 日以内に、これを招集しなければならない。  
(第 21 条第 2 項へ) ←

第 22 条 次の事項は、あらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。

- (1) 寄附行為の変更
- (2) 基本財産の設定及び処分 (担保提供を含む。)
- (3) 毎事業年度の事業計画の決定及び変更
- (4) 収支予算及び決算の決定
- (5) 剰余金又は損失金の処理
- (6) 借入金額の最高限度の決定
- (7) 本財団の解散
- (8) 他の医療法人との合併契約の締結
- (9) その他重要な事項

2. 前項に掲げる事項は、評議員会の議決を要するものとすることができる。

第 23 条 評議員会は、総評議員の過半数の出席がなければ、その議事を開き、議決することができない。

2. 評議員会の議事は、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3. 前項の場合において、議長は、評議員として議決に加わることができない。

第 24 条 評議員は評議員会において、1 個の議決権及び選挙権を有する。

(第 26 条へ) ←

第 21 条 理事長は、毎年 1 回〇月に評議員会を招集しなければならない。ただし、理事長において必要と認めるときは、臨時に開くことができる。

2 理事及び監事は、評議員会に出席し、議事に関し意見を述べることができる。

3 評議員の 3 分の 1 以上、又は監事から会議の目的たる事項を示して請求があったときは、理事長は評議員会を招集しなければならない。

第 22 条 評議員会の議長は、評議員の互選によって定める。

第 23 条 評議員会は、評議員の 2 分の 1 以上が出席しなければ、議事を開くことができない。

2 評議員は、評議員会において 1 個の議決権及び選挙権を有する。ただし、評議員会の議決事項につき特別の利害関係を有する者は、当該事項につきその議決権を行使できない。

第25条 評議員は、あらかじめ通知のあった事項についてのみ書面又は代理人をもって議決権及び選挙権を行使することができる。ただし、代理人は評議員でなければならぬ。

2. 代理人は、代理権を証する書面を議長に提出しなければならない。  
 (第23条第2項へ) ←

第26条 会議の議決事項につき特別の利害関係を有する者は、当該事項につきその議決権を行使できない。  
 (第22条第1項へ) ←

第27条 理事会の議事についての細則は、理事会で定める。  
 2. 評議員会の議事についての細則は、評議員会で定める。

第6章 寄附行為の変更

第28条 この寄附行為を変更しようとするときは、理事及び評議員の総数のそれぞれ3分の2以上の同意を得、かつ、〇〇県知事(〇〇厚生局長)の認可を得なければならない。

第7章 解散及び合併

第29条 本財団は、次に事由によつて解散する。  
 (1) 目的たる業務の成功の不能

3. 評議員は、あらかじめ通知のあった事項についてのみ書面又は代理人をもって議決権及び選挙権を行使することができる。ただし、代理人は評議員でなければならぬ。

4. 代理人は、代理権を証する書面を議長に提出しなければならない。  
 5. 評議員会の議事は、別段の定めのあるもののほか、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第24条 次に掲げる事項に関しては、理事長は理事会の議決を経て、評議員会に諮り決定しなければならない。

- 1 寄附行為の変更
- 2 基本財産の設定及び処分(担保提供を含む。)
- 3 毎事業年度の事業計画の決定及び変更
- 4 収支予算及び決算の決定
- 5 剰余金又は損失金の処理
- 6 借入金額の最高限度の決定
- 7 本財団の解散
- 8 他の医療法人との合併契約の締結
- 9 その他重要な事項

第6章 寄附行為の変更

第25条 この寄附行為を変更しようとするときは、理事及び評議員の総数のそれぞれ3分の2以上の同意を得、かつ、〇〇県知事(〇〇厚生局長)の認可を得なければならない。

第7章 解散及び合併

(2) 他の医療法人との合併

(3) 破産手続開始の決定

(4) 設立認可の取消し

2. 前項第1号の事由による解散は、理事及び評議員の総数のそれぞれ3分の2以上の同意を得、かつ、〇〇県知事(厚生労働大臣)の認可を受けなければならぬ。

第30条 本財団が解散したときは、合併及び破産手続開始の決定による解散の場合を除き、理事がその清算人となる。ただし、評議員会の議決によって評議員の中からこれを選任することができる。

2. 清算人は、次の各号に掲げる職務を行い、又、当該職務を行うために必要な一切の行為をすることができる。

(1) 現務の終了

(2) 債権の取立て及び債務の弁済

(3) 残余財産の引渡し

第31条 本財団が解散した場合の残余財産は、合併及び破産手続開始の決定による解散の場合を除き、以下の者から選定して帰属せしめとする。

(1) 国

(2) 地方公共団体

(3) 医療法第31条に規定する公的医療機関の開設者

(4) 都市医師会又は都道府県医師会(民法第34条の規定により設立された法人に限る。)

(5) 財団医療法人又は社団医療法人であって持分の定めのないもの

第32条 本財団は、理事及び評議員の総数のそれぞれ3分の2以上の同意を得、かつ、〇〇県知事(厚生労働大臣)の認可を得て、他の財団医療法人と合併することができる。

第8章 雑則

第33条 本財団の公告は、官報(及び〇〇新聞)によって行う。

第26条 やむを得ない理由があるときは、理事及び評議員の総数のそれぞれ3分の2以上の同意を得、かつ、〇〇県知事(厚生労働大臣)の認可を得て、本財団を解散することができる。

第27条 本財団が解散したときは、理事がその清算人となる。ただし、評議員会の議決によって評議員の中からこれを選任することができる。

第28条 本財団が解散した場合の残余財産は、理事会及び評議員会の議決を経、かつ、〇〇県知事(厚生労働大臣)の認可を得て処分するものとする。

第29条 本財団は、理事及び評議員の総数のそれぞれ3分の2以上の同意を得、かつ、〇〇県知事(厚生労働大臣)の認可を得て、他の医療法人と合併することができる。

第8章 雑則

第30条 本財団の公告は、〇〇新聞(官報)によって行う。

第34条 この寄附行為の施行細則は、理事会の議決を経て定める。

附 則

本財団設立当初の役員及び評議員は、次のとおりとする。

理 事 長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理 事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
監 事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
評 議 員	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第31条 この寄附行為の施行細則は、理事会及び評議員会の議決を経て定める。

附 則

本財団設立当初の役員は、次のとおりとする。

理 事 長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
常務理事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理 事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
監 事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
評 議 員	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

別添5

定款作成上の注意

この定款例は、良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法等の一部を改正する法律（平成18年法律第84号。以下「改正法」という。）の施行日前に設立された医療法人（改正法の施行の際現に改正前の医療法第42条第2項に規定する特別医療法人に限る。）の定款変更につき、改正法附則第9条第1項の規定により、施行日から1年以内に医療法第50条第1項の認可の申請又は第3項の届出が必要となる部分を示したものである。  
 ただし、第4条第2項並びに第13条第2項及び第6項については、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項に規定する指定管理者として管理する公の施設である病院（診療所、介護老人保健施設）がない場合、規定する必要がないこと。

<p>〔改正後〕 特別医療法人の定款例－1及び2</p> <p>医療法人〇〇会定款</p>	<p>〔改正前〕 特別医療法人の定款例－1</p> <p>（平成10年健政発第802号厚生省健康政策局長通知）</p> <p>医療法人〇〇会定款</p>	<p>〔改正前〕 特別医療法人の定款例－2</p> <p>（平成10年健政発第802号厚生省健康政策局長通知）</p> <p>医療法人〇〇会定款</p>
<p>第2章 目的及び事業</p> <p>第4条 本社の開設する病院（診療所、介護老人保健施設）の名称及び開設場所は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 〇〇病院 〇〇県〇〇郡(市)〇〇町(村)</p> <p>(2) 〇〇診療所 〇〇県〇〇郡(市)〇〇町(村)</p> <p>(3) 〇〇園 〇〇県〇〇郡(市)〇〇町(村)</p> <p>2 本会社が〇〇市(町、村)から指定管理者として指定を受けて管理する病院（診療所、介護老人保健施設）の名称及び開設場所は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 〇〇病院 〇〇県〇〇郡(市)〇〇町(村)</p> <p>(2) 〇〇診療所 〇〇県〇〇郡(市)〇〇町(村)</p> <p>(3) 〇〇園 〇〇県〇〇郡(市)〇〇町(村)</p> <p>第4章 役員</p> <p>第13条 理事長及び常務理事は、理事の互選によって定める。</p> <p>2 本社の開設（指定管理者として管理する場合</p>	<p>第2章 目的及び事業</p> <p>第4条 本社の開設する病院及び診療所（並びに介護老人保健施設）の名称及び開設場所は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 〇〇病院 〇〇県〇〇郡(市)〇〇町(村)</p> <p>(2) 〇〇診療所 〇〇県〇〇郡(市)〇〇町(村)</p> <p>(3) 〇〇園 〇〇県〇〇郡(市)〇〇町(村)</p> <p>第4章 役員</p> <p>第13条 理事長及び常務理事は、理事の互選によって定める。</p> <p>2 本社の開設する病院及び診療所（並びに介護</p>	<p>第2章 目的及び事業</p> <p>第4条 本社の開設する病院及び診療所（並びに介護老人保健施設）の名称及び開設場所は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 〇〇病院 〇〇県〇〇郡(市)〇〇町(村)</p> <p>(2) 〇〇診療所 〇〇県〇〇郡(市)〇〇町(村)</p> <p>(3) 〇〇園 〇〇県〇〇郡(市)〇〇町(村)</p> <p>第4章 役員</p> <p>第13条 理事長及び常務理事は、理事の互選によって定める。</p> <p>2 本社の開設する病院及び診療所（並びに介護</p>

<p>を含む。)する病院及び診療所(並びに介護老人保健施設)の管理者は、必ず理事に加えなければならない。ただし、〇〇県知事(厚生労働大臣)の認可を受けた場合はこの限りでない。</p> <p>3～5 (略)</p> <p>6 監事には、この法人の理事(これら親族その他特殊の関係のある者を含む。)及び職員(本社の開設する病院、診療所又は介護老人保健施設(指定管理者として管理する病院等を含む。))の管理者その他の職員を含む。)が含まれてはならない。また、各監事は相互に親族その他特殊の関係があつてはならない。</p>	<p>老人保健施設)の管理者は、必ず理事に加えなければならない。ただし、〇〇県知事(厚生労働大臣)の認可を受けた場合はこの限りでない。</p> <p>3～5 (略)</p> <p>6 監事には、この法人の理事(これら親族その他特殊の関係のある者を含む。)及び職員が含まれてはならない。また、各監事は相互に親族その他特殊の関係があつてはならない。</p>	<p>老人保健施設)の管理者は、必ず理事に加えなければならない。ただし、〇〇県知事(厚生労働大臣)の認可を受けた場合はこの限りでない。</p> <p>3～5 (略)</p> <p>6 監事には、この法人の理事(これら親族その他特殊の関係のある者を含む。)及び職員が含まれてはならない。また、各監事は相互に親族その他特殊の関係があつてはならない。</p>
<p>第14条 (略)</p> <p>2～4 (略)</p> <p>5 監事は、次の職務を行う。</p> <p>(1) 本社の業務を監査すること。</p> <p>(2) 本社の財産の状況の監査すること。</p> <p>(3) 本社の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後3月以内に社員総会又は理事に提出すること。</p> <p>(4) 第1号又は第2号による監査の結果、本社の業務又は財産に<u>関し不正の行為又は法令若しくはこの定款に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを〇〇県知事(厚生労働大臣)又は社員総会に報告すること。</u></p> <p>(5) 第4号の報告をするために必要があるときは、<u>社員総会を招集すること。</u></p> <p>(6) 本社の業務又は財産の状況について、<u>理事に対して意見を述べること。</u></p>	<p>第14条 (略)</p> <p>2～4 (略)</p> <p>5 監事は、<u>民法第59条に規定する職務</u>を行う。</p>	<p>第14条 (略)</p> <p>2～4 (略)</p> <p>5 監事は、<u>民法第59条に規定する職務</u>を行う。</p>
第6章 会議	第6章 会議	第6章 会議

<p>第22条 会議は、理事長がこれを招集する。</p> <p>2 理事長は、総社員の5分の1以上の社員から会議に付議すべき事項を示して臨時総会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に、これを招集しなければならない。</p> <p>3 理事会及び評議員会を構成する理事（現在数）又は評議員（現在数）の3分の1以上から連名をもって会議の目的たる事項を示して請求があったときは、理事長はその会議を招集しなければならない。</p> <p>4 社員総会の議長は、社員総会において選任し、理事会の議長は、理事長をもって、評議員会の議長は、評議員の互選によって定める。</p> <p>第7章 資産及び会計</p> <p>第38条 本社の（事業報告及び）決算については、毎会計年度終了後2月以内に、事業報告書、財産目録、貸借対照表及び損益計算書（以下「事業報告書等」という。）を作成しなければならない。</p> <p>2 本社は、事業報告書等、監事の監査報告書及び本社の定款を事務所に備えて置き、社員又は債権者から請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。</p> <p>3 本社は、毎会計年度終了後3月以内に、事業報告書等及び監事の監査報告書を〇〇県知事（厚生労働大臣）に届けなければならない。</p> <p>第9章 雑則</p> <p>第44条 本社の公告は、<u>宣報（及び〇〇新聞）</u>によって行う。</p>	<p>第22条 会議は、理事長がこれを招集する。</p> <p>2 その会議を構成する社員若しくは理事又は評議員の3分の1以上から連名をもって会議の目的たる事項を示して請求があったときは、理事長はその会議を招集しなければならない。</p> <p>3 社員総会及び理事会の議長は、理事長をもって、評議員会の議長は、評議員の互選によって定める。</p> <p>第7章 資産及び会計</p> <p>第38条 本社の決算については、<u>監事の監査を経た上、理事会及び社員総会並びに評議員会の承認を受け、毎会計年度終了後2月以内にこれを〇〇県知事（厚生労働大臣）に届けなければならない</u>。</p> <p>第9章 雑則</p> <p>第44条 本社の公告は、<u>〇〇新聞（官報）</u>によって行う。</p>	<p>第22条 会議は、理事長がこれを招集する。</p> <p>2 その会議を構成する社員現在数若しくは理事現在数又は評議員現在数の3分の1以上から連名をもって会議の目的たる事項を示して請求があったときは、理事長はその会議を招集しなければならない。</p> <p>3 社員総会及び理事会の議長は、理事長をもって、評議員会の議長は、評議員の互選によって定める。</p> <p>第7章 資産及び会計</p> <p>第38条 本社の事業報告及び決算については<u>理事長が作成し、監事の監査を経た上で、第23条から第25条及び第28条の手続きを経て、毎会計年度終了後2月以内にこれを〇〇県知事（厚生労働大臣）に届けなければならない。</u></p> <p>第9章 雑則</p> <p>第44条 本社の公告は、<u>〇〇新聞（官報）</u>によって行う。</p>
--	---	---

附 則

本  
社  
団  
設  
立  
当  
初  
の  
役  
員  
及  
び  
評  
議  
員  
は、  
次  
の  
と  
お  
り  
と  
す  
る。

理 事 長 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
常 務 理 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 理 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 理 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 理 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 理 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
監 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 評 議 員 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 評 議 員 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

附 則

本  
社  
団  
設  
立  
当  
初  
の  
役  
員  
は、  
次  
の  
と  
お  
り  
と  
す  
る。

理 事 長 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
常 務 理 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 理 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 理 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 理 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 理 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
監 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 評 議 員 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 評 議 員 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

附 則

本  
社  
団  
設  
立  
当  
初  
の  
役  
員  
は、  
次  
の  
と  
お  
り  
と  
す  
る。

理 事 長 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
常 務 理 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 理 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 理 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 理 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 理 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
監 事 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 評 議 員 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
同 評 議 員 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○